

光寺文書の内容の中に、福知山城築城の際光秀軍師が当寺の石垣を接取に来た様子が、記されています。当寺も取り壊される最中、住持と軍師が互に美濃の出身であることが分かり、作業は中止されました。室町4代将定親義持の祈願所となりました。天正8年明智光秀の寺安塔の自筆書状、天正9年明智秀満の寺安塔の自筆書状が、天寧寺に残っています。その後、歴代福知山城主の寺安塔の書状が、残って

光寺文書の内容の中に、福知山城築城の際光秀軍師が当寺の石垣を接取に来た様子が、記されています。当寺も取り壊される最中、住持と軍師が互に美濃の出身であることが分かり、作業は中止されました。室町4代将定親義持の祈願所となりました。天正8年明智光秀の寺安塔の自筆書状、天正9年明智秀満の寺安塔の自筆書状が、天寧寺に残っています。その後、歴代福知山城主の寺安塔の書状が、残って